

協議結果（報告）

協議書提出状況	① 久留米市地域生活支援協議会 施策推進部会 委員 11名 ② 委員 11名中 11名提出
---------	--

協議事項 1. 各分科会の事業報告及び事業計画について

（1）結果

承認 11名、不承認 0名

（2）委員意見

委員	意見
委員	*部会を超えて交流を考えていましたが、コロナで実行できていない。
委員	*コロナウィルス対策で、各部会とも十分な会議が出来ていない。今後は、オンラインでの活用を考えていく必要がある。 *おとな分科会は就労に偏ってしまったと思う。 *こども分科会は、福祉分野だけでなく、放課後ネット等と連携を図るなど今後の動きを期待したい。 *おとな分科会は就労に偏り、生活全般の課題に取り組む事が出来ていないので、今後提起していきたい。 *当事者分科会は、現在の出来事が何に起因しているかを知るために、障害者差別の歴史や社会的背景を知る機会をつくり、当事者運動の必要性とその変遷を学ぶことが必要。 *相談分科会は、特に、入所施設において、自己完結に陥りがちなので、外部からの相談支援員の活用が求められ、コロナ禍で外出禁止が続く障害者の地域移行を進めて貰いたい。 *重心分科会は、その性格上専門家の関与が欠かせないものの人材の確保をする観点から、研修を通じて一般市民による関与の余地も広める必要がある。
委員	*分科会相互の活動の様子がわかる機会があるとそれぞれの分科会の活動の参考になることもあると思うので、他の分科会の話し合いや勉強会など、できる範囲でいいので委員にもお知らせいただくとありがたい。

協議結果（報告）

協議事項 2. 令和2年度相談分科会勉強会について

（1）結果

承認11名、不承認0名

（2）委員意見

委員名	意見
委員	<p>*コロナ感染拡大を考えると、行事の中止等はしかたがないと思うが、リモート等でも学習（勉強会）しやすい環境づくりのサポートが受けられたらと思う。</p> <p>*コロナ禍で体調不良で働けなくなる障害者が増えている。そこにもサポートやサービスが必要だと思う。</p>
委員	<p>*よく取り組まれていると思う。気になる点として</p> <p>① 市内の障害者相談支援事業の現状の評価尺度について</p> <p>② 相談支援専門員のスキルアップのための研修を、相談支援専門員のニーズだけで決めて良いのか？これは①とも連動する。</p> <p>研修の効果を検証する手立てと誰がしていくのか？結果、どういった形で評価していくのか？研修の計画性と何のため（目的）がさらに明確になると、相談支援専門員の方々のモチベーションもupすると思う。</p>
委員	<p>*全体的に支援者や事業所向けの勉強会が多い。何の問題にせよ、当事者抜きでは問題解決には繋がらず、障害者の問題も又然りであるのだが、現実的にはそうっていない。今後は多々の人権問題と同じように当事者から学ぶ姿勢が必要。</p>
委員	<p>*障害当事者の人たちと一緒に勉強会をすべきである。</p> <p>*いろいろなことが相談できるように、日頃からお互いコミュニケーションを図ること。</p>